

「中国江蘇大学研修旅行参加報告書」

京都大学文学研究科博士後期課程1年 朴起兌

①学習成果

今回の研修旅行のメインは、京都大学と江蘇大学の院生たちの発表と杉本淑彦先生の講演であった。主に文学・歴史・ポピュラーカルチャーを取り扱う私たち京大生の発表は、江蘇大学の学生たちにとって非常に印象的であったようだ。江蘇大学では外国語学部で言語学を重んじており、言語学的方法論を取り入れた外交修辞の分析などを行っていたが、発表の内容と方法論が非常に洗練していた。

なお、学部生の授業にも参加し、日本語教育の現場を見ることができた。学生たちの日本語はとても上手で、難しい教科書を読み、作文もできるようになっていた。日本の大学と交流を増やし、学生たちに良質の教育を提供していきたいという江蘇大学外国語学部日本学科のこれからの方向性が窺えた。

最後に、杉本先生のご講演は『源氏物語』の解釈に関わるもので、観光学や文学批評などを視野に入れた議論が印象的であった。そこでも学部生たちの鋭い質問があり、真の「学术交流」の場ができていることを感じた。

②海外での経験

中国に行くのは初めてであったため、短い間であったが様々なことを見て、感じることもできた。どこに行っても高層ビルの建設現場があり、綺麗な高速鉄道と汚いバスとが、そしてデジタル化した支払いシステムと古い露店とが共存している様子を見て、子供の頃以来感じることはできなかった発展途上の国の熱いエネルギーを感じた。今回訪問した江蘇大学の発展ぶりも、まるで中国そのもののように思われた。

また、個人的に関心のある食文化や中国史に関しても様々なことを体験することができた。中国南方の食べ物には刺激的でなく、素材と味付けなどが非常に優れていたと思った。他に近代化や『三國志』、『白蛇伝』などに関わる遺跡も残されており、歴史と文学の「聖地巡礼」をすることができた。遺跡は綺麗に整備されており、そこから眺める長江や鎮江市などの風景は格別であった。

しかし何よりも、中国で会った人々に感動した。大学の先生や院生の方々の心からの歓迎、学生たちの熱い情熱、親切な職員さんたち。そして、中国で頑張っている日本人の先生たちの姿。それは一生忘れられない記憶として残るだろう。

③プログラム内容

中国・江蘇大学にて京都大学・江蘇大学の院生たちの発表会と杉本先生の講演会とが開催されることになった。また、鎮江市の遺跡・市内に訪れ、中国の文化を体験することも計画されていた。

④進路への影響について

中国の大学に就職するということも日本の大学院生としては一つの選択肢としてあり得ると思った。中国はまだ発展途上で、大学もまたそうである。そのため、その発展の主役として異国で働くことも良い選択になるだろう。また、少なくとも江蘇大学外国語学部は学术交流の相手としてもレベルが高く、今後交流プログラムなどがあれば積極的に参加したいと思うようになった。